

住宅改善にアドバイス

ハンディをささえるモノづくり通信



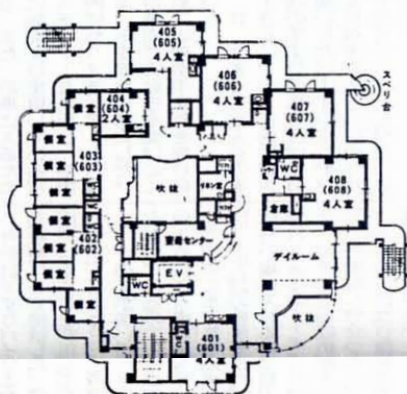
熱心に相談を受けるメンバー

秋晴れの10月14・15日の両日、大阪市平野区・福祉機器展が、平野区民ホールで開催されました。「こんないいところだ、いじょうぶでつかう」をキーワードに「みんなであつくる、あったかい福祉のまちづくり」を目標とする平野区社会福祉協議会(区社協)が主催、平野区高齢化社会対策担当(区高対)がネットワーカー委員の研修を兼ねて後援しました。会場は多くの参加で「近所」を持ち込んだような和やかな雰囲気になりました。また、多くのネットワーカー委員やボランティアが参加していたのも目を引きました。介護や入浴サービス、改良衣料ファッションショー等の実演、講演などでは、高対の関心の高さをうかがっていました。二日間にわたる福祉機器・住宅改修相談コーナーを設け、事例報告のパネル展示を行い、15件の相談がありました。府・市営住宅の密集地の平野区内のいろいろな事情を反映してか、浴室や手すりの相談が特に目立ち、その他、家全体改修や新築の時の相談もありました。区高対の担当者も相談にのり、住宅改修での失敗事例を出さないために研究会との連携を深めたいと言っていたのが印象的。地域に密着して活動する、区高対や区社協などと、機器展を通じて連携と交流を深める事ができたと思われまふ。今後も機会あるごとに、相談コーナー活動を行ってはどうでしょうか。また、大阪市内の各区社協、ボランティアビュローとの交流や連携を深め、もっと実のあるものになるのではないのでしょうか。

好評の相談コーナー

平野区福祉機器展で

平野区社協の担当者の方々にお聞きしたところ、初めての機器展にもかかわらず、二日間の予想参加者数の300人をはるかに越える入場者があつたようです。平野区社協には、日頃から高齢者、障害者の住宅改修や福祉機器の相談が多く、二日間に必要に迫られた。機器展などの事で、今後回を重ねて行きたいと抱負を語っておられました。(前田全康)



広く明るく開放的

特養「いくとく」見学記

9月3日(土)、午後から大阪阿倍野にある、特別養護老人ホーム「育徳園」を見学させて頂きました。ここは、平成6年3月に開設された鉄筋コンクリート造り8階建て個室が40室、食堂3室、浴室は機械浴室も含めて3室、定員百三十名、職員五十名の中規模程度の施設です。この様な施設に関する知識が全く無いので、もし私がここで世話になると仮定して書いてみました。

外観は高級マンション風で、若者好みのモダンな建物です。でもお年寄りにはいくつと落ち着いた、心安らぐ雰囲気と、樹や花など季節を感じさせる空間が欲しいと思います。特に建物の外壁に設けられた車椅子用スロープや非難用滑り台等実用的でない物を外せば緑地帯に利用出来るのでは。建物内部の各施設は居室、食堂等明るく開放的で気持ちよく又介護もしやすいです。いいのですが、やはり日本人、食堂の隣にでも和室が一つあればいいと思います。次に浴室、トイレ等水廻りについては見学した浴室の浴槽と洗い場の段差がかなり大きく一人では

渡るように、スポイドと注射針で流し込む。この時、流し込みが不均一だと浴室などでの使用の際に、接合部より水が侵入し内部より錆びてくることになるので、十分な注意が必要です。接合部を流し込んだら10〜15分は動かさず硬化するのを待ち、各ジョイントの接合を確認すれば完成します。設計に当たっては注意しなければならぬことは、使用目的使用環境、制約条件などを十分考慮した上で設計を進めることです。特に人が使用するものの場合、荷重の作用方向、大きさ(静荷重、動荷重)を計算し、必要強度を決めておく必要があります。その後パイプ寸法を出す、ジョイントや付属品の選定を行います。パイプ寸法の算出方法は、外寸法又は内寸法を基準にしてジョイント寸法を引いて求めます。在宅介護におけるイレクターの活用事例などの紹介も、彼らを自らから選



介もあり、使用者の個々の状態に合わせたものを手軽に製作できるシステムとして、非常に便利で有効な材料であることが分りました。ただ機能本位、実用優先のシステムであるためか、完成したものはどれも構造的なまま外観に影響しており、特に介護用品として人に接する用品のデザインとしては、パーツのデザインを初めとして、完成品として組立てた状態を数種類想定して、構造を露出させないカバーを用意するなどの、より一層の工夫が必要と思われる。

「イレクター」パイプフリー 障害や危険を除去すること。空間的バリア(障害)は、身体障害者や高齢者に最大の影響を及ぼします。段差、狭い入り口、不自由なトイレなどは自立を制限し、見えにくい表示や複雑な道路なども、彼らを自らから選

補助具として有効

イレクターの組立て実習

十月の学習会は、矢崎氏が主催。製作に当たって注意しなければならぬことは、まず最初に設計図に当たって、寸法通りの長さのパイプとそれをつなぐジョイントを必要数あらかじめ揃え、分類しておく。これはパイプの長さが微妙に違うものがある場合、長さの違うパイプを接合してしまわないためです。

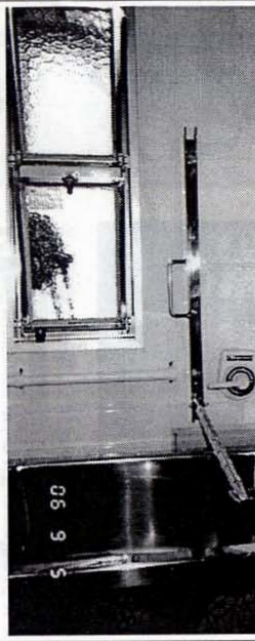
基本的な組み立て手順として、まず枠から組み立てを始めます。今回のシャワー椅子の場合、右枠、左枠をそれぞれ組み立て、そして連結パイプ、柱と枠をつなぐようにして組み立てます。このような手順で行えば段取りよく、簡単にできる。最後に、全体に組み込み、パイプの嵌合具合を確認し、パイプとジョイントを接着液で固定する。接着液はプラスチックを互いに溶かして接着するので接着面全体に行き渡るように、スポイドと注射針で流し込む。

「イレクター」パイプフリー 障害や危険を除去すること。空間的バリア(障害)は、身体障害者や高齢者に最大の影響を及ぼします。段差、狭い入り口、不自由なトイレなどは自立を制限し、見えにくい表示や複雑な道路なども、彼らを自らから選

事例報告

アイデア光る

収納型手すり

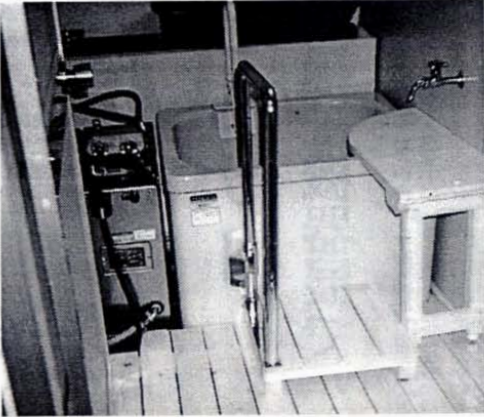


必要な時だけ取り出せる手すり

肩までお湯が！

喜びいっぱいのNさん

Nさん 88才 女性
A 居室からトイレ、浴室への移動の為に手すりの設置と浴室の改修をして欲しい。
B 右大腿骨複雑骨折、自力でやっと歩ける程度。室内の椅子で一日過ごしている。外室はほとんどしない。
C 初期診断チームが始めて活躍。O.T.の米崎さん、後藤さんと杉浦がNさん宅を訪問。米崎さんのアドバイスをもとに設計は杉浦、製作は上田隆男さんと布施さんが担当し、浴室に手すりを二本設置した。高齢で腰が曲がり身長も低いので手すりの高さを床から70センチの位置が最適と判断した。浴室入口の段差が18センチと高く、これを解消する為に脱衣室側にステップを設け、部屋の照明が暗いので、周囲に銀色を施しステップを目立たせた。洗い場床面にすのこを敷き入口の段差を無くした。浴室の立ち上がりが60センチあり、このままではまたけないので、バスボードを置き更に手前に手すり付きの踏み台を置いた。浴槽が深すぎ、バスボードに座ったままでは足が届かないので、浴槽内に20センチの高さのすのこを設けた。
D 実際に使用テストを行なったが、バスボードの位置に浴室内掃除用の水栓があり、これが使用者の背中に当たるので、これを撤去することに決めた。この作



手すり付きの踏み台も

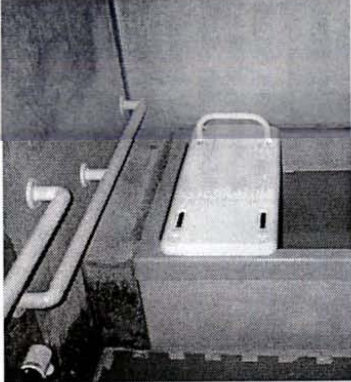
身近に介護者の付き添いが。また、浴槽に入るために従来より使用しているバスチェアを利用し、浴槽内にもバスチェアとバスボードを新たに購入した。居は、市営高齢者の入浴で、最近外室するのは近くの病院に行くときぐらいで、以前は自力で歩いて通院していたが今は車椅子を利用して。日常生活では、多くの時間をソファで過ごし、浴槽内では手すり付きの椅子で過ごす。浴槽内には手すりを取り付け、便所には、便座左横の出入口枠に縦方向の手すりを取り付け、風呂場内には、浴室出入口枠に縦方向の手すりを取り付け、浴室内は出入口より浴槽に向かい水切り口より浴槽に傾いた水切り勾配がついてあるため、前のめりになり転倒することを防止するために、すのこを洗い場一面に引き洗いを水平にした。すのこも三枚割にして目ごころ掃除をしやすく心掛けた。浴室壁面には、浴槽に向かい左手に横方向の手すり、右側に縦方向の手すりを取り付け、右膝に水がたまり歩

じっくり考察

手すりの位置決め

Kさん 80才 女性
A 車椅子が出入りしやすく、玄関にスロープ設置。トイレに手すり取り付け。浴室にシャワーを取り付け、一人で入浴出来るようにしたい。
B 右膝に水がたまり歩

行困難。室内では這って移動。外出時は車椅子。娘さんと同居。木造一軒建。
C 浴室にシャワーと給湯機を取り付けるため、工事には業者委託とした。浴室には手すりバスボードをつけた。



二段構えの手すり

業者委託方式

ニーズの多様化に対応

私たちの研究会の皆さん、研究活動の拡大発展を願うことになりました。このために、新たに「初期診断チーム」を設立し、個々のニーズに対して適切な方法を採用すべきか、それを担当をお願いすること等々の判断に当たることになりました。もちろん、依頼者の意向は最優先しなければいけません。チームの構成は当面、杉浦、中北、後藤、布施、三浦の五氏が輪番で当たります。「業社委託方式」の場合は、研究会から選抜されたメンバーが設計監理者として、請け負業者を監督する事にありますが、詳細な取り決めについては別の資料をご覧ください。研究会活動の基本理念は、ボランティア精神にありますので、「業社委託方式」はあくまでも多様なニーズに応える一つのメ

会員プロフィール

宮崎俊二 宮崎建設株式会社社長
一級建築士 室内の改造及び建築設計、見積、工事施工など協力致します。
須磨美子 岩谷住宅産業株式会社建築本部設計担当。サリドマイドの少年少女たちとキ

定例会のお知らせ

〈十二月〉
日時 12月3日
午後一時半～五時
場所 大阪市立社会福祉センター
3階第3会議室
講師 建築設計士 赤谷吉信氏
「介護の現場から」
講師 ボランティア・終了後 午後五時半、

ヤンやマラソン等に参加。将来的には、高齢者、障害者の住宅を健康者の住宅と変えないコストと、思いで設計してみたい。
前田全康(まさみち) 松永産業株式会社営業部長。ハイテク技術、機器製造設計、メンテナンス技術があり、福祉機器、住宅改造に関するソフトの充実、現実的に困っておられる方の具体的な不自由解消に当たってソフト面の充実などを考えています。
山本みどり インテリア設計図書作成。とにかく小さなことでも体を使い動かして、自分自身でかわって行きたい。

ちよっ情報

自立生活支援センター・ピア大阪が、早川福祉会館内で次の活動を始めました。
◎ピアカンセク 視覚、聴覚、肢体、精神等の障害をもつ方の自立に関する相談。
◎自立生活体験室 洋室・和室を利用して、自分自身のプログラムに合った生活体験ができる。
◎浴室提供 障害者が利用しやすい設備が整った介助者と共に個人専用で二時間三十分の利用。
お問い合わせは 電話06-662-1180